

所報 研究所だより

教育・しまんと

★本年もよろしくお願ひします。

久しぶりの所報の発行です。新しい年は、相変わらず新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中で明けました。また、三学期の始業を迎えた日は、一面の銀世界となりました。

各学校におかれましては、一年締めくくりの学期を迎え、本年度の教育活動の集約及び次年度へ向けての青写真を描いておられる頃ではないかと思ひます。

とにもかくにも、新型コロナの影響で一年の締めくくりが困難を強いられた昨年度末のようなことにならないよう願わずにはいられません。

さて、今年**は「丑年」**です。年男・年女の方がおられる中で、目に留まった記事から、少し触れさせていただきたいと思ひます。丑年生まれの人については、「**努力家でマイペース**」ということがよく言われます。牛が草を食べる時しっかりと反芻するように、何事もじっくりと考へて、納得がいくまではなかなか動き出しません。その代わり、一旦意思が決まると他人の意見に惑わされることなく自分のペースで突き進んでいきます。温厚な性格で頭の回転が良く、面倒見の良い人が多いので、リーダーとして頼られることも多いですが、天狗になったりすることもありません。

努力を惜しまずコツコツと我が道を進む丑年生まれの人は、**頑固で意地っ張りな面も持っています**。周囲から見て遠回りとなることをしていたとしても、本人は納得をしておこなっていることなので、助言には耳を貸しません。そのため、他人より回り道をしてしまう生き方をする傾向もあります。また、良い結果になればいいのですが、悪い結果になったとしてもそれを認めにくい性格でもありません。

令和2年度
NO. 7

発行 四万十市教育研究所

四万十市田野川乙 1240 番地
Tel/Fax (0880) 32-1020
ふれあい学級(0880) 32-1022

また、使役に耐える牛の姿から想像できるように、我慢強く粘り強い人が多いのですが、ひとたび我慢の限界に達すると突然怒りだし、すべて出し尽くすまで止まりません。日頃は温和なだけに、周囲は驚いてしまうかもしれませんが、だからと言って誰かと大喧嘩になることはあまりないでしょう。

どうでしょうか？ 当てはまることはあったでしょうか？ あくまでも一般的傾向だと思ひますので……。

★過去にあった丑年の出来事

◆**1961年**—アメリカの第35代大統領にジョン・F・ケネディーが就任、「地球は青かった」の発言で有名なユーリイ・ガガーリン飛行士を乗せた宇宙船が地球一周に成功しました。日本では、坂本九さんの『上を向いて歩こう』が大ヒットしています。

◆**1973年**—オイルショックによる買い占め騒動が起きます。モノ不足が心配される中、大手コンビニエンスストアチェーンが1号店を出店。また、この年、国内出生数はピークを迎えています。

◆**1985年**—ゲームの『スーパーマリオブラザーズ』が発売され大ヒット、アメリカでは『バック・トゥ・ザ・フューチャー』が公開されました。

◆**1997年**—世界初となる量産型ハイブリット車トヨタ・プリウスが発売。アメリカでは『タイタニック』が公開され、世界中で大ヒットしました。

◆**2009年**—国内では、衆院選で民主党が歴史的勝利をおさめた「政権交代」や「裁判員

制度開始」が大きな話題となりました。また、野球のイチロー選手と松井選手がメジャーリーグで大活躍しました。

★まとめ

過去の丑年には、人類初の宇宙飛行や、日本では政権交代、ハイブリット車のデビュー、コンビニエンスストアチェーンが1号店出店など革新的な出来事もありました。

令和になって初めての丑年、2021年はどんな年になるのでしょうか。

2020年は新型コロナウイルス・パンデミックによって世界中が多くの困難に見舞われました。2021年は皆でコロナを克服し、その中から数々のイノベーションが生まれ、希望に満ちた年になることを願わずにはられません。

◆本年度の振り返りと来年度へ向けて

【授業づくり講座】について

教科サークルⅠの代替として、本年度試行的に実施した「授業づくり講座」については、新型コロナウイルスの感染症の影響により、一学期に予定されていた講座が中止となり、二学期以降に当初の予定より半減した形で開催されました。

各学校におかれましては、授業時数の確保、学校行事の精選・縮小等々、遅滞ない教育活動の推進に向けて、創意工夫を図る中で、積極的な公開授業及び講座への参加をいただきました。ご協力に感謝申し上げます。

過日、各学校に依頼しましたアンケートでは、教科サークルⅠに替わる授業づくり講座への取り組みに対しては、ほとんどの学校から肯定的な声をいただきましたが、一方で、サークルが持つ本来の趣旨と照らし合わせたときに今回の方法に疑問が残る。といった意見や小規模校にとっては、参加した際の学級の補充体制の厳しさや大規模校にとっては、

同一の研修会に複数参加することが難しく、結果として講座に参加できない教職員が出てきたといったご意見もありました。

そして、大きな課題として、中学校の技能教科の研修頻度が少なく、研修の確保を求める意見がありました。

サークル連絡協議会の場でも同様の意見が出されました。技能教科に関しては、各学校及びサークル連絡協議会で出された意見を集約し、2月12日の「運営委員会」の場で、来年度へ向けて一定の方向性を共有したいと考えております。

「授業づくり講座」に関しては、本年度試行的に取り組みましたが、新型コロナの感染により一年間を通した形での開催とはなりませんでした。

来年度どのような形で示されるのか不透明な部分もありますが、今一度試行的に通年で取り組めることを目指したいと思っております。

【サークルⅡ 夏季研修会】について

本年度は、これまで開催していたサークルⅡ（教科外）の研究大会を休止し、夏季研修会に一本化しました。

この取り組みに関しても、肯定的な意見が目立ちました。

「1回だけの研修でも、十分深まりのあるものになった。」とか

「来年度も本年度の形を継続してほしい」という意見を多くいただきました。

ただ、やはり研修の場が限られていて、物足りなさを感じた。というような意見もありました。年度当初のスタートの時期に、コロナの関係で各部会での話し合いが持てなかったことが、計画立案に影響したと思われます。

色々なご意見を受けて、より良い形で来年度も開催できるよう運営委員会等で協議検討したいと思っております。